

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護学概論	1単位(30)	1年次 4月	専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置づけと役割を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師	
1回	1 看護の定義	講義	専任教員 (校長又は 副校長)	
2回 3回	2 看護の目的、機能と役割 (1)事例を通して看護のあり方、看護に求められていることを考える	演習		
4回	3 看護理論家の看護の定義 4 看護の継続性と連携	講義		
5回	5 看護の歴史 (1)日本と欧米の看護の発展の違い	講義		
6回	6 職業的看護の芽生え (1)フローレンス・ナイチンゲールの功績 (2)ゴールドマークレポートとブラウンレポート	講義		
7回	7 わが国の看護教育制度とその課題 8 わが国の診療報酬制度における看護の評価	講義		
8回	9 人間にとっての健康 (1)健康の定義、病気・障がいの定義	講義 演習		
9回	10 基本的権利としての健康 (1)健康を守る法律・施策 (2)プライマリー・ヘルスケア (3)ヘルスプロモーション	講義		
10回 11回	11 国民全体の健康状態 (1)各統計からみる健康 (2)生活と健康	講義		
12回	12 看護をめぐる法律と政策 (1)医療法、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律等	講義		
13回	13 広がる看護の役割と活動の場 (1)看護サービス提供の場と看護活動 (2)看護の国際化	演習 講義		
14回	14 看護の対象の理解 (1)人間の総合的理解 15 看護師のキャリアアップ	演習 講義		
15回	修了認定試験:筆記試験 90点、レポート 10点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野1 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール、湯槇ます他訳、看護覚え書、現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン、湯槇ます・小玉香津子訳、看護の基本となるもの、日本看護協会出版会			

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護の理論	1単位(15)	2年次 10月	専任教員	あり(看護師)

科目目標:

看護の理論を理解し、看護に対する理解を深める。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 理論の定義 2 看護理論を学ぶ意義(理論の目的) 3 看護理論の構成要素 4 看護理論の範囲(大理論、中範囲理論) 5 看護理論の発展過程	講義	専任教員
2回	6 看護理論のカテゴリー 7 主な看護理論 (1) ナイチンゲール *看護学概論での学習を想起 (2) ヘンダーソン (3) ペプロウ (3)~(6)の理論家について学習する (4) トラベルビー (5) オレム (6) ロイ	講義	
3回 4回	8 各看護理論についてグループワーク (1) 理論家の紹介 (2) 理論が生まれた背景 (3) 理論の特徴 (4) 理論の実践への活用	演習	
5回	9 グループ発表会 質疑応答、意見交換	演習	
6回	10 理論を使った事例の分析 11 実習での体験を理論をもとに考察する	講義・演習	
7回	12 その他の理論の紹介 ケアリング理論(レイニンガー、ワトソン、ベナー) 13 まとめ	講義	
8回	修了認定試験:筆記試験70点 レポート30点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h)	
使用テキスト	看護学基礎テキスト第1巻 看護学の概念と理論的基盤 日本看護協会出版会		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護の基本となる技術 I (人間関係成立の技術)	1単位(30)	1年次4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 看護技術の概念と意義を理解する。
2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。
3. 看護倫理について理解し看護者としての責任を自覚する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 看護技術とは 2 看護技術の特徴と構造	講義	専任教員
2回	3 コミュニケーションの構成要素と成立過程 4 コミュニケーションのコンテキスト 5 関係構築のためのコミュニケーションの基本 (1)基本的態度 (2)接近的行動	講義	
3回	6 効果的なコミュニケーション (1)傾聴 (2)共感 (3)要約 7 情報収集の技術 8 説明の技術	講義	
4回 5回	9 患者とのコミュニケーション (1)コミュニケーションの基本 10 効果的なコミュニケーションの実際 (1)患者への挨拶 (2)患者との会話	校内実習	専任教員 外部講師
6回	11 アサーティブネス 12 医療スタッフとの会話 報告・連絡・相談	講義	専任教員
7回	13 医療スタッフとのコミュニケーション 報告・連絡・相談	校内実習	専任教員 外部講師
8回	14 コミュニケーションに困難をきたす人との会話 (1)コミュニケーションに困難をきたす疾患 (2)コミュニケーションが困難な人との会話	講義	専任教員
9回 10回	15 疾患を持つ患者との会話	校内実習	専任教員 外部講師
11回	16 倫理とは 道徳・法律 生命倫理 医療倫理 ケアの倫理	講義	専任教員
12回	17 看護倫理と倫理的概念 倫理原則 患者の権利 倫理的ジレンマ 倫理的課題と意思決定 看護倫理綱領	講義	
13回 14回	18 看護者としての自覚と倫理 19 倫理的課題を含めた事例を基にディスカッション	演習	
15回	修了認定試験:筆記試験 100点(コミュニケーション70点、倫理30点) 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護の基本となる技術Ⅱ (対象把握の技術)	1単位(30)	1年次5月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。
2. 看護における記録・報告の意義と方法を理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 ヘルスアセスメント (1)ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント (2)看護におけるフィジカルアセスメント (3)フィジカルアセスメントに必要な基本技術 問診・視診・触診・聴診・打診	講義	専任教員
2回 3回	2 生きていることのアセスメント (1)一般状態と生命徴候 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識レベル (2)測定方法とアセスメント (3)体温表の記載	講義	
4回	3 日常生活行動をするための機能のアセスメントⅠ (1)恒常性維持のための流通機構—循環器系 ①心臓のポンプ機能 ②動脈血の循環、静脈血の還流	講義	
5回 6回	4 バイタルサイン測定の実際 (1)体温・脈拍・呼吸・血圧測定	校内実習	専任教員 外部講師
7回 8回 9回	5 日常生活行動をするための機能のアセスメントⅡ (1) 息をする—呼吸器系 ①呼吸運動 ②ガス交換 (2)見る・聴く・話す—視覚、聴覚、発声・構音 (3)嗅ぐ・味わう・食べる—嗅覚、味覚、咀嚼・嚥下 (4)排泄する—消化器系・腎・泌尿器系 (5)身体を守る—皮膚・リンパ・甲状腺 (6)動く—筋・骨格系、神経系 ①筋力 ②運動機能・反射	講義	専任教員
10回 11回	6 フィジカルアセスメントの実際Ⅰ 生命を維持する—呼吸・循環 (1)息をする (2)流通機構	校内実習	専任教員 外部講師
12回	7 記録 (1)記録とは (2)記録の目的と方法 (3)記録の種類 問題志向型システム(POS)・フォーカスチャーティング 8 報告 (1)報告とは (2)報告の目的と方法	講義	専任教員
13回 14回	9 フィジカルアセスメントの実際Ⅱ (1)食べる・排泄する (2)動く	校内実習	専任教員 外部講師
15回	修了認定試験:筆記試験 70点、技術試験 30点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験・技術試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護がみえるvol.③フィジカルアセスメント メディックメディア		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護の基本となる技術Ⅲ (医療・療養環境を整える技術)	1単位(30)	1年次4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

安全・安楽な医療・療養環境の意義と方法を理解し、対象の環境を整えるための技術を習得する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 環境の概念 療養環境調整における看護師の役割	講義	専任教員
2回	2 患者を取り巻く療養環境 環境空間のアセスメント	講義	
3回	3 安楽を阻害する原因のアセスメント 安楽を提供する援助方法	講義	
4回	4 安楽を確保するための主な援助 (1) 褥瘡法 (2) 体位の保持 (3) リラクゼーション	講義	
5回 6回	5 臥床患者のシーツ交換、環境整備 (ベッドメイキング含む)	校内実習	専任教員 外部講師
7回 8回	6 安楽な体位の保持 7 温褥法(湯たんぽ、温湿布)		
9回	8 医療における安全の重要性 9 安全を守るための看護師の役割 10 医療安全対策の基本 (1) 医療現場で起こりやすい事故 (2) 安全を脅かす要因とその対策		
10回 11回	11 感染予防対策 (1) 感染の成立と予防 (2) 感染予防対策	講義	
12回	12 スタンダードプリコーション	校内実習	専任教員 外部講師
13回 14回	13 無菌操作		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点(医療40点、療養環境60点) 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
看護の基本となる技術IV (看護過程)	1単位(30)	1年次 9月	専任教員	あり(看護師)

科目目標:

看護過程の意義と科学的思考プロセスを理解する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 看護過程の基礎 (1)看護過程の意義と構成要素 (2)問題解決法の理解と看護過程	講義	専任教員
2回	(3)看護の概念枠組みとデータ収集		
3回	(4)看護診断の理解		
4回	2 看護過程の展開① (1)情報収集 (2)情報の分析・解釈	講義	
5回	(3)関連図を使用した情報の整理		
6回	3 事例展開① (1)情報の整理 (2)情報の分析・解釈	演習	
7回	4 看護過程の展開② (1)関連図を使用した統合アセスメント	講義	
8回	5 事例展開② (1)情報の分析・解釈	演習	
9回	(2)関連図		
10回	6 看護過程の展開③ (1)看護問題の抽出 (2)看護診断	講義	
11回	(3)目標の設定 (4)介入計画立案		
12回	7 事例展開③ (1)看護診断・診断リスト	演習	
13回	(2)目標の設定 (3)介入計画		
14回	8 看護過程の展開④ (1)実施・評価	講義	
15回	修了認定試験:筆記試験 70点、レポート 30点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 照林社 NANDA-I看護診断 定義と分類2018-2020 原著第11版 医学書院		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
生活を整える技術 I (食事・排泄を整える技術)	1単位(30)	1年次 9月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

- 健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得する。
- 排泄の意義を理解し、基本的援助技術を習得する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 食事と栄養の基礎知識 2 健康な食生活と食事摂取基準	講義	専任教員
2回	3 栄養状態と食事のアセスメント 4 食生活に影響を与える因子 5 医療施設における食事		
3回	6 食事の援助 7 摂食行動に障害のある場合		
4回 5回	8 基本的な食事介助	校内実習	専任教員 外部講師
6回	9 非経口栄養摂取法 10 栄養サポートチーム(NST)	講義	専任教員
7回	11 排泄に必要な基礎知識 (1)排泄の意義 (2)排尿・排便のメカニズム (3)安全安楽な排泄の援助(感染予防を含む) 12 排尿・排便行動のアセスメント (1)腹部のアセスメント (2)排泄行動の自立の程度 (3)排泄への影響因子	講義	専任教員
8回	13 排泄障害に関する基礎知識		
9回	14 排泄の基本的援助 (1)排泄環境の整備 (2)排泄器具と設備 (3)床上排泄の援助方法		
10回 11回	15 尿器・便器の当て方 16 浣腸	校内実習	専任教員 外部講師
12回 13回	17 導尿		
14回	18 排便障害時の援助 19 排尿障害時の援助	講義	専任教員
15回	修了認定試験:筆記試験100点(食事40点、排泄60点) 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 学研		

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
生活を整える技術Ⅱ (活動休息・清潔を整える技術)	1単位(30)	1年次 4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

- 活動・休息の意義を理解し、基本的な技術を習得する。
- 身体に関する清潔の意義を理解し、基本的な技術を習得する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 活動と運動 (1)活動と運動の意義 (2)活動・運動に影響する要因 ①体位の種類と身体への影響 ②同一体位の有害性	講義	専任教員
2回	2 活動・運動のアセスメント (1)筋・骨格のアセスメント (2)日常生活動作 (3)ボディメカニクス 3 活動の援助方法 (1)体位変換の目的と留意点 (2)床上移動の目的と留意点 (3)車椅子・ストレッチャーでの移動・移送の目的と留意点	講義	
3回	4 休息と睡眠 (1)休息と睡眠の意義 (2)休息・睡眠に影響する要因 (3)休息・睡眠のアセスメント (4)休息・睡眠を促す援助方法	講義	
4回 5回	5 体位変換(ボディメカニクス)	校内実習	
6回	6 移動・移送 (1)車椅子・ストレッチャーでの移動・移送	校内実習	専任教員 外部講師
7回	7 清潔援助の基礎知識 8 看護師の役割 9 衣生活	講義	専任教員
8回	10 清潔の援助方法 1) (1)病衣・寝衣の交換 (2)手浴 (3)足浴とフットケア (4)整容 (5)口腔ケア	講義	
9回	11 清潔援助の実際 1) (1)足浴	校内実習	
10回	12 清潔の援助方法 2) (6)入浴・シャワー浴 (7)全身清拭 (8)洗髪 (9)陰部洗浄	講義	専任教員
11回 12回	13 清潔援助の実際 2) (2)口腔ケア (3)洗髪	校内実習	専任教員 外部講師
13回 14回	14 (4)全身清拭 (5)寝衣交換		
15回	修了認定試験:筆記試験 100点(活動休息40点、清潔60点) 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研		



科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
診療に伴う技術	1単位(30)	2年次 4月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:

診療の補助技術である与薬・診察・検査等の看護について基礎知識、技術を習得する。

授業回数	授業計画	授業方法	講師	
1回 2回	1 薬物療法の基礎知識 (1)薬物療法とは (2)薬物における法律と看護 (3)薬物の投与経路と体内動態 (4)薬物の作用・副作用 (5)薬物に影響する因子	講義	専任教員	
3回	2 経口与薬 3 皮膚用製剤 4 点眼法 5 点鼻法 6 直腸内与薬法	講義		
4回	7 注射法の基礎知識 (1)適用と種類 (2)器具と取り扱い (3)誤薬防止・感染予防・処理方法 (4)合併症	講義		
5回	8 筋肉内注射	講義		
6回	9 経口与薬(錠剤・散剤・水薬)の実際 10 直腸内与薬の援助の実際	校内実習		専任教員 外部講師
7回	11 静脈注射 12 点滴静脈内注射	講義		専任教員
8回 9回	13 筋肉内注射の実際 1)部位の確認 2)薬液の準部～実施	校内実習		専任教員 外部講師
10回	14 注射法(皮下・皮内)	講義		専任教員
11回	15 検査と看護 (1)検査の種類と看護 (2)検体検査 (3)生体検査	講義		
12回	16 生体侵襲を伴う検査の援助方法 (1)内視鏡検査 (2)穿刺の介助	講義		
13回 14回	17 点滴静脈内注射の実際	校内実習		専任教員 外部講師
15回	修了認定試験: 筆記試験:70点、 実技試験:30点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記・実技試験(1h) 自己学習時間(1h)		
使用テキスト	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研			

科目名	単位数(時間数)	開講時期	担当講師	実務経験
臨床看護技術	1単位(30)	1年次 10月	外部講師	あり(看護師)
			専任教員	あり(看護師)

科目目標:健康障害を持つ対象を理解し、主要症状・治療処置等の状態に応じた看護技術を習得する。

- 1 健康障害を持つ対象の代表的な状態を理解できる。
- 2 健康障害をもつ対象の状態に応じた援助技術を習得できる。
- 3 救急法が理解できる。

授業回数	授業計画	授業方法	講師
1回	1 主要症状のある患者の看護 (1)症状のアセスメント (2)援助の実際 2 包帯法	講義	専任教員
2回	3 体温管理の技術 (1)発熱とは (2)体温の観察とアセスメント (3)発熱時の援助	講義	
3回	4 呼吸困難 (1)呼吸困難とは (2)呼吸の観察とアセスメント	講義	
4回	5 呼吸困難を緩和する援助 (1)体位変換の工夫 (2)換気の促進 (3)酸素吸入 (4)薬物療法(吸入)	講義	
5回	5 呼吸困難を緩和する援助 (1)体位の工夫 (2)換気の促進 (3)酸素吸入	講義	
6回	6 事例を用いてのアセスメント、看護計画の立案	講義 演習	
7回 8回	7 酸素吸入法 (1)酸素供給システム(中央配管方式、酸素ボンベ) (2)超音波ネブライザーの取り扱い	校内実習	専任教員 外部講師 (看護師)
9回 10回	8 症状に対する援助の実際 (1)冷罨法 (2)酸素吸入 (3)安楽な体位	校内実習	
11回 12回 13回 14回	9 上級救命講習 10 包帯法	講習 演習	
15回	修了認定試験:筆記試験 100点 60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照)	筆記試験(1h) 自己学習時間(1h)	
使用テキスト	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学技術 I、II 医学書院 看護技術プラクティス 学研 看護過程に沿った対症看護 学研 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス インターメディカ		